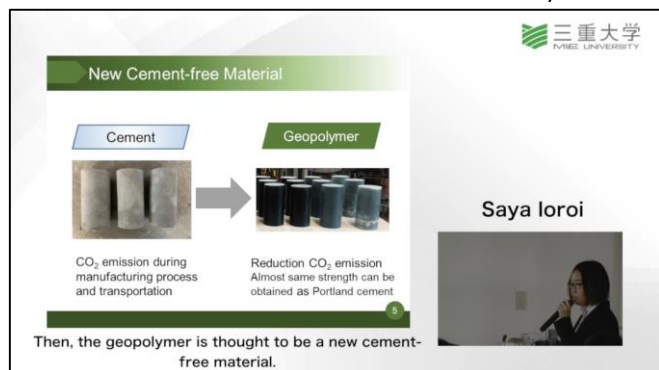


三重大学生の英語プレゼンテーション動画を制作しました！

グローバル人材教育開発部門は、三重大学生の英語力向上のための事業の一環として、三重大学工学研究科の院生2名による英語プレゼンテーション動画(字幕付き)を制作しました。この動画はmoodle3.5の「地域人材教育開発機構」→「英語プレゼンテーション動画(グローバル部門)」をクリックすると視聴できます(学内者限定)。今後英語でプレゼンテーションをする機会のある学生たちのお手本として、または授業の教材として活用されることを目指しています。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



(ログイン画面)

国際協力活動家阪口直人さんの講演会を開きました！

グローバル人材教育開発部門の主催で、1月22日に、国際活動協力家の阪口直人さんをお招きして講演会を開きました。阪口さんが国連ボランティアとして参加したカンボジアでの選挙監理活動の経験や、同じ国連ボランティア活動に参加しながら現地で命を落とした中田厚仁さんの話、また中田さんの死後に現地に設立された「アツ学校」のお話などをしていただきました。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)



(講師の坂口直人氏)

MEIPLサポートデスク 情報共有ミーティングを開催しました！

三重大学における学生の学修やICT関係の多様な相談に応じる「MEIPLサポートデスク」は、活動開始から2年が経過し、まもなく3年目が始まります。立ち上げ時に博士前期課程の1年生だったスタッフは、課程修了、そして巣立ちの時を迎えようとしています。今春からは大きくメンバーが入れ替わり、第2フェーズが始まります。

フェーズの節目に、これまでの活動の振り返りと、今後の活動計画を全体で話し合うことを目的に、3月3日(火)に環境・情報科学館にてMEIPLサポートデスクのミーティングを行いました。当日は学生20名、教員2名、職員4名の参加があり、新旧メンバーが一同に集まりました。

ミーティングは基本的にクラウドサービスをベースとして、ミーティング資料の共有(Google Drive)はもちろん、感想や質問の投稿や共有(Padlet)、グループワーク用スライドの共同編集や共有機能(Googleスライド)などをとり入れ、可能な限り即時効率的に全員で情報共有ができるようにしました。なかには、自宅からビデオ通話(Google Meet)で参加したスタッフもいましたが、超広角レンズ搭載のカンファレンスカムや、クラウドサービスの活用により、滞りなく進行できました。

今回、卒業論文で一部MEIPLサポートデスクに関する調査を行った工学部建築学科4年生もミーティングに参加し、調査結果を報告しました。質疑の時間には多数質問があり、活発な議論が行われました。

今後も今回のミーティングと同様の姿勢で、「徹底した情報共有」「テクノロジーの活用」「多様な分野・年齢の教職学のクロスロード」を意識して継続的に活動する予定です。来年度は新たに開館する数理データサイエンス館(CeMDS)と環境・情報科学館(MEIPL)の2拠点において、さらにパワーアップして活動を展開します！ぜひぜひ遊びにお越しください。(eラーニング・教材開発部門 森本尚之・和気尚美)



(ビデオ通話で参加するスタッフとのやりとり)

PBL型授業「次世代産業実践」の 事前事業が行われました！

2019年12月14日(土)に、COC+オリジナル科目「次世代産業実践」事前学習を実施いたしました。三重大学から11名、四日市大学から1名の計12名が参加しました。航空宇宙産業をテーマに工場や研究所の見学を含めた集中講義のため、事前知識として1969年、今から50年前の人類が初めて月に到達した際のアポロ計画を題材にして、いかにイノベーションを興していったかの考え方やその反動といったデメリットについて学びました。2020年2月18～20日の日程で集中講義を鈴鹿青少年センターで実施する予定です。



(参加者達の様子)

第3回留学生対象「就活セミナー」を開きました！

グローバル人材教育開発部門と国際交流センターが連携して、外国人留学生を対象とした「就活セミナー」の第3回(1月28日)を開きました。講師は第1回、第2回と同じく名古屋外国人雇用サービスセンターのオリヴェイラ栄里子様で、参加留学生たちは日本での就職活動における面接のマナーを学びました。セミナーの様子はmoodle3.5の国際交流センターのページで視聴できます(学内者限定)。(グローバル人材教育開発部門 福岡昌子・松岡知津子・正路真一)

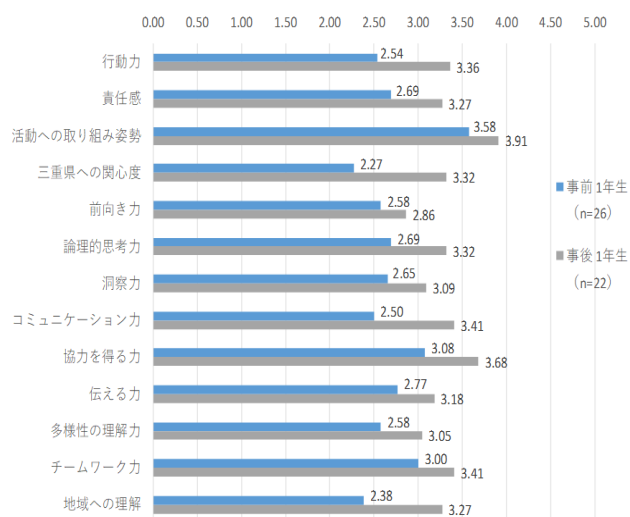


(講師のオリヴェイラ栄里子様)

地域活動を積極的に行う学生の成長度を調査しました！

三重創生ファンタジスタクラブに所属する学生(1年生中心)を対象に、クラブでの地域活動が自身の成長にどのように結びついているかを把握するため、「三重創生ファンタジスタ成長アンケート」を実施しました。本アンケートは、クラブ活動を通じて成長するであろう項目を自己採点で回答するものとなっており、クラブ活動の影響を測定するため、活動が本格化しはじめる前の7月と、地域活動がある程度体験した1月に実施しました。

その結果、1年生の事前アンケート(7月)と事後アンケート(1月)を比較すると、すべての項目において、ポイントが上昇しており、特に「三重県への関心度」、「コミュニケーション力」、「地域への理解」が大幅に伸びていました(本結果は、ポイントが高いほど成長を感じていることを示しています)。ほとんどの1年生は、地域活動が未経験でしたが、ファンタジスタクラブにおいて地域の方々と協働することで、三重県への関心や理解だけでなく、社会で必要とされる能力などを身につけてきたと感じていることが分かりました。(地域創発部門 東大史・織田拓・鈴木幸子)



(調査結果の一部)

注：本アンケートは、大学コンソーシアム京都の許可をいただき、森正美・大東貢生・笠井賢紀・桂良彦・生谷謙次・筑田一毅『京都学生祭典実行委員の活動を通じた成長実感調査Ⅱ～地域活性化活動の効果検証と今後事業改善に向けて～』(2016年)の「京都学生祭典実行委員の活動を通じた成長についてのアンケート」を改変して使用させていただきました。

三重大学SDGsシンポジウムを開催しました！

2月12日(水)、本学の環境・情報科学館において、三重大学SDGsシンポジウム「サステナビリティ」を再発見するー三重の歴史的・文化的営みを通してーを開催し、92名が参加しました。

このシンポジウムは、三重大学の「人と自然の調和・共生」、「地域に根ざし、世界へ通じる人材育成」という教育理念のもと、歴史的、地理的にも恵まれた三重県をフィールドに、SDGsをテーマとして開催しました。



(人文学部教授朴恵淑の開会挨拶)

はじめに、朴恵淑人文学部教授から「今日のシンポジウムではSDGsとは何かについてじっくり考え、隣の方と手を結ぶことで自分の役割が1+1=100になるようなシンポジウムになればと思っています。」と開会の挨拶を述べられました。続いて、鈴木英敬三重県知事から手紙によるご挨拶(代読:三重県環境生活部地球温暖化対策課小林克史課長)があり、駒田美弘三重大学長からビデオメッセージによるご挨拶がありました。



(三重大学長駒田美弘のご挨拶)

第1部の基調講演では、株式会社環境文明研究所代表取締役・所長、認定NPO法人環境文明21顧問の加藤三郎氏を招き、「環境文明論的SDGsと三重大学・三重県への期待」と題した講演が行われました。講演の中で、なぜSDGsなのか、日本社会を持続可能な環境文明社会に改築するためにはどうすればよいのか、大学の役割は何かなどについて説明されました。

最後に、「昔持っていた知恵と新しい知恵をよく見比べながら新しい橋を作っていく場として、三重大学は良い位置にあるのではないかと思います。是非そのような方向で動き出していただけると嬉しいと思います。」と述べられました。



(講師の加藤三郎氏)

第2部では、朴教授がコーディネーターとなり、加藤氏にも引き続きご参加いただき、パネルディスカッションが行われました。パネリストは、音羽 悟 神宮司庁広報室広報課長、竹内千尋 志摩市長、田中俊行 前四日市市長・学校法人大橋学園顧問、速水 亨 速水林業代表、三重大学院生 安部大樹さん、三重大学学生 ESD・SDGsクラブ代表 南部陽香さん、山本俊彦三重大学理事(教育担当)・副学長・本機構長の7名で、それぞれ行っている活動とSDGsの関わりや課題などについてプレゼンテーションを行いました。

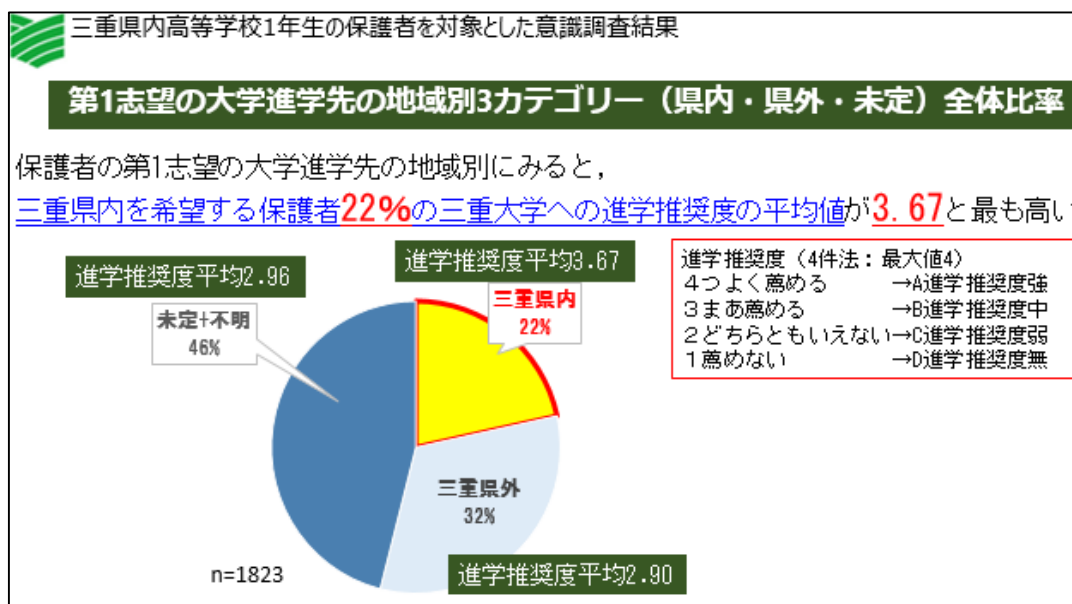
最後に、山本機構長から「このシンポジウムを毎年行い、内外に自分たちの取り組みを発信することを継続していきたいと思っています。皆さんには、SDGsは自分の日常として考えて、行動していただきたいと思います。」と閉会の挨拶がありました。



(機構長山本俊彦教授の閉会挨拶)

参考: <http://www.mie-u.ac.jp/topics/kohoblog/2020/02/post-1986.html>

今回より、「ステークホルダーから見た三重大学」の連載がスタートします。その目的は、ステークホルダーの視点による積極的な説明責任への貢献です。「教学マネジメント指針」(2020年1月22日中央教育審議会大学分科会)には、学修者本位の教育の実現には大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が重要とあります。本連載では、地域人材教育開発機構の教学IR・教育評価開発部門とエンrollment・マネジメント部門が協力して、教学関連やアドミッション関連の各種データをもとに、「供給者目線」ではなく、「学修者目線」および学修者に関わる様々なステークホルダー(保護者、高校教員、卒業生、企業や地域社会等)から見た本学の現状や課題を明らかにしていく予定です。第1回目の本稿では、昨年11月29日の全学入試委員会でエンrollment・マネジメント部門から報告した「三重県内高等学校1年生の保護者を対象とした意識調査結果」の概要を紹介します。



今回の調査は、三重大学に進学実績のある三重県内の公立高等学校8校の高校1年生(調査当時、現高校2年生)の保護者を対象に2019年1月に本調査を実施(配布数2,402人、回収数2,102人、回収率87.5%)したもので、属性項目で子供の卒業後の希望進路を「大学進学」と回答した1,823件を有効回答としています。分析方法は次の通りです。

- ①第1志望の大学進学先の地域では三つの変数を用いて、それぞれの変数の分布をパーセンテージで示す。
 三つの変数は、「三重県内」「三重県外」「未定+不明」
- ②三重大学への進学推奨度(以下、推奨度とする)は、4件法(4つよく薦める、3まあ薦める、2どちらともいえない、1薦めない)に基づき、次の4カテゴリーを変数とし、それぞれの変数の分布をパーセンテージで示す。
 A 推奨度が強い(4つよく薦めると回答した層) B 推奨度が中くらい(3まあ薦めると回答した層)
 C 推奨度が弱い(2どちらともいえない層) D 推奨度が無し(1薦めないと回答した層)
- ③①②のクロス集計を行い、変数の関連を明らかにする。

上記の図は、第1志望の大学進学先地域別の比率と、地域別の推奨度の平均値を示したもので、「三重県内」を希望する保護者21.6%の推奨度の平均値が3.67と最も高い結果でした。次に地域が「未定+不明」の保護者46%の推奨度の平均値が2.96、「三重県外」の保護者32%の推奨度の平均値が2.90でした。高校1年生時の保護者のうち、約半数が子供の第1志望の大学進学先地域については未定(不明)と回答していますが、約3割はすでに三重県外の大学に進学を推奨しており、三重県内の大学を推奨する割合は2割程度であるという結果が明らかになりました。その要因などについては次回以降で紹介していきます。(エンrollment・マネジメント部門 宮下伊吉)

編集後記

機構ニューズレターNo.54をお届けします。本号は、各部門のイベント開催報告および案内、ステークホルダーから見た三重大学 ～第1回 高校生の保護者その1～のまとめを中心に構成しています。お忙しい中、ご寄稿、ご協力頂きました皆様には、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。(教学IR・教育評価開発部門 黄文哲・前川悠)

NEWS LETTER vol.54 2020年3月 発行

国立大学法人三重大学 地域人材教育開発機構
 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
 TEL: 059-231-5615 FAX: 059-231-2354
 E-MAIL: chiikijinzaib@ab.mie-u.ac.jp
<http://www.dhier.mie-u.ac.jp/>